

# 「後天眼球運動障害に対する視能訓練プログラムの検討」に関する研究

川崎医療福祉大学倫理審査承認番号 22-079

## 1. 研究の背景

後天眼球運動障害では、外傷や脳の血管障害によって目の筋肉（外眼筋）が麻痺して目の動きが悪くなります。そのため複視（物が二重に見える状態）をきたし、日常生活が不自由となります。後天眼球運動障害は自然に治る場合があります、発症から6か月間は斜視手術を実施しないことが原則です。しかし、その期間には二次的に麻痺した外眼筋と反対方向に動かす筋肉（拮抗筋）が緊張しすぎる状態となり、目の位置の異常（麻痺性斜視）が残る場合もあります。麻痺性斜視の予防と複視の改善のためには視能訓練が有効と報告されていますが、家庭訓練を中心とした視能訓練プログラムは確立されていない課題があります。

そのため、本研究では後天眼球運動障害に対する視能訓練のプログラム化を検討します。本研究は、後天眼球運動障害に対して患者様への負担の少ない保存的方法として広く病院施設での実施が可能となることが期待されます。

## 2. 利用方法

利用目的：後天眼球運動障害に対する視能訓練のプログラム化を検討するため

利用方法：検討1は、融像状態別（潜伏融像、部分融像、狭い融像野）、訓練開始時期別（発症より6か月未満、6か月以上）の治癒度、治癒までの期間、疾患、斜視角、訓練方法の比較を行います。

検討2は、融像状態別、プリズム装用時期別の治癒度、治癒までの期間、疾患、斜視角、訓練方法を比較します。なお、プリズムは光を曲げる働きがあり、両眼の視線を合わせて物が一つに見えるようにするレンズの一種です。プリズムには、フレネル膜プリズムと組み込みプリズム（眼鏡レンズに組み込むタイプ）があります。

患者様の情報は匿名化したうえで、パスワードを付したUSBメモリに保存し、川崎医療福祉大学で分析されます。

情報の内容：年齢、性別、疾患、原因、訓練開始時期、治癒までの期間、視力、融像状態、斜視角、眼球運動、治癒度、訓練方法

研究期間：2023年（倫理審査承認後）～2025年3月31日

## 3. 研究の対象

2004年6月～2023年9月に、当院で後天眼球運動障害と診断された方

## 4. 研究に関する質問、研究利用の拒否などについて

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。また、患者様または代理人の求めに応じて、研究への利用を拒否することが出来ます。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

## 5. お問い合わせ先

河原眼科クリニック 院長 河原 正明

岡山県岡山市北区本町 6-36-3

Tel 086-234-2015

研究責任者：川崎医療福祉大学 リハビリテーション学部 視能療法学科

岡山県倉敷市松島 288

岡 真由美

E-mail okamayu@mw.kawasaki-m.ac.jp

Tel 086-462-1111（内線 54632）